



教育者大旨之際にありて

同志者其操る所の要

領之者準依之玉に教育

社説之付就るに同要領者

以て之に従ひて下りて其の

其の付て、其の是れ其の

ありて、其の是れ其の

ありて、其の是れ其の

ありて、其の是れ其の

ありて、其の是れ其の

ありて、其の是れ其の

ありて、其の是れ其の

ありて、其の是れ其の

ありて、其の是れ其の



糸部、其陳之、作、吉、寸
許、後、こ、心、年、何、友、右、太、
會、せ、う、し、連、こ、は、み、報、下
紹、り、こ、う、方、幸、く、玉、こ、は、福、く

敬、大

廿日九の、玉、求、教、會、社、長、河、河、徳、二

伊、藤、大、隈、重、信、殿

又、下

田、中、島、親、右、衛、門、様、お、七、十、地
内、寄、大、隈、重、信、殿

閣、下



中、右、の、表、可

西、三、毛、初、高、朝、成、田、繁、右、衛、門、長

伊、藤、徳、二



伊澤...

小學校教育費國庫補助之要旨

- 一 國家が小學校教育ニ干渉スル以上ハ國庫ニ於テ其費用ノ全部ヲ負擔スルカ又ハ其一部ヲ補助スルハ文明國一般ノ通法タル事
- 一 本邦小學校教育費ハ學制頒布已後國庫ヨリ補助シ明治十四年マデ繼續支出シ來リシニ一時政府ノ都合ニヨリ之ヲ廢絶シ今日全ク市町村ノ負擔ニ歸シタルモノナレバ政府ハ國庫補助復旧ノ責ニ任スヘキ義務アル事
- 一 小學校教育國庫補助費ハ學齡兒童就學奨励ノ目的ヲ以テ各市町村又ハ學校組合ニ配付スベキ事
- 一 小學校教育國庫補助費ハ初年ニ少クモ七拾萬圓トシ國家經濟ノ許ス限リ漸次其額ヲ増加スベキ事
- 一 小學校教育費國庫補助ノ件ハ政派問題ノ外ニ置クベキ事
- 一 總テ教育ニ関スル國庫ノ新支出ハ本按通過ノ後ニ非レバ協賛セザル事

内四百五十一萬八千四百五十八圓餘ハ市町村費ノ支出ニ係リ其額實ニ市町村費總額ノ三分一ニ超過スル有様ナレバ此上市町村ノ負擔ヲ重クスルコトハ目下ノ民度ニ於テ實ニ堪ヘ難キ儀ト被存候又主ニ授業料ヲ徴シテ小學校ヲ維持スル時ハ授業料ノ納付ニ苦シム人民ノ如キハ到底其子弟ヲ就學セシムルモノナキハ目下各地方ノ實況ニ就テモ明瞭ニ有之又明治七年以來ノ實歴ニ因リテモ授業料ノ多少ト就學兒童數ノ増減トハ實ニ反比例ヲ致居候ノミナラズ之ニ反シテ國庫又ハ地方稅ヨリ補助金ヲ與ヘタル當時ヲ調



西宮市立第一小學校
 伊澤 潤二

小學教育費國庫補助之儀ニ付請願

某等 平素我帝國ノ國立教育ニ熱心致居候ニ付今茲ニ誠實ノ志望ヲ以テ謹テ我尊嚴貴重ナル帝國議會(貴族院 衆議院)ニ請願仕候其旨趣ハ

國民一般ニ必須ノ小學教育ヲ普及セシメシメ爲メ來明治二十七年以降國庫ヨリ小學教育補助費ヲ支出セラレ漸次授業料ヲ減廢シテ國立教育ノ實ヲ舉ゲラルベキ事

某等 熟我帝國ノ現狀ヲ觀察スルニ方今帝國ノ小學教育ハ立憲ノ宏謀ト共ニ其面目ヲ一新シテ帝國百年ノ大計ヲ立テザル可ラザルノ氣運ニ際會セリト被存候仰立憲國民

ノ福利ヲ全ウシ富國強兵ノ基礎ヲ固シセンニハ國民一般ノ智徳ヲ發達スルコト最必要ニシテ假設一部ノ國民如何ニ發達ストモ十全ノ好果ヲ收ムルコト能ハザルハ 某等ノ今更著辨ヲ待タザル所ニ有之候然ルニ明治五年學制頒布以來現今ニ至ルマデ改正施行セラレタル教育制度ハ其功決シテ鮮少トハ申ス可ラザルモ未ダ立憲帝國ニ必要ナル國民

一般ノ發達ヲ完成スルコト能ハザル哉ニ相見エ現ニ我國ノ學齡兒童ハ亡慮七百有餘萬人ナレドモ其内就學スル者ハ三百四十有餘萬人ノミニシテ不就學兒童ハ却テ三百六十

有餘萬人ニ超過致候若シ此儘ニシテ小學教育ヲ等閑視スレバ次代ノ帝國人民ハ全ク無教育ニ陥ルモノ過半數ニ及ビ誠ニ帝國ノ一大不幸ト被存遺憾ノ至ニ有之候

實ニ我帝國ノ教育ハ目下斯ノ如キ情態ニ有之候ヘドモ遠ク歐洲各國ノ現狀ヲ觀察致候ヘバ各國ガ國家ノ生存ヲ競争シテ銳意一般國民ノ智徳ヲ發達ヲ務ムルコトハ我帝國ノ

遠ク企及スル能ハザル所ニ有之英國ノ豐富ハ申スマデモ無之候ヘドモ毎年其普通教育ニ費ス國庫金ハ實ニ二千五百八十一萬圓餘ノ鉅額ニ上リ普國ハ一千二百五十七萬餘圓

佛國ハ殆ド一千万圓ニ達スルノ狀況ニ有之希臘國ノ如キハ其人口ヲ以テスレバ殆ド我二十分ノ一ニ均シキ弱小國ナレドモ尙小學教育ノ爲メニ十三萬八千餘圓ノ國庫金ヲ支

出シ居リ瑞西國ノ如キハ其人口極メテ寡少ニシテ略我東京市ノ人口ニ二倍程ナレドモ小學教育費百五十一萬四千餘圓ヲ國庫ヨリ補助致シ候様承リ及ビ候其他亞米利加合

衆國ノ如キハ實ニ億萬ノ公費ヲ抛チテ全國民ニ強促教育ヲ施シ居リ候次第ニ有之方今各國ガ内ニ顧ミテ一般國民ノ智徳ヲ發達ヲ務メ候テ外ニ向ヒテ富強ヲ誇リ候モ誠ニ偶

然ノ事ニハ無之東洋現時ノ形勢ヨリ熟慮深考致候ヘバ國家ノ爲メ誠ニ慨嘆ノ至ニ被存候

方今内外ノ事情斯ノ如キ時ニ當リ内ニハ立憲ノ宏謀ヲ全クシ外ニハ帝國ノ富強ヲ示シ世界ノ優勝劣敗場裡ニ國家ノ生存ヲ競争セントスルニハ是非共我帝國内一般國民ノ智

徳ヲ發達セシムル謀計盡シ務メテ不就學兒童ヲ減少セシムルノ方略ヲ講ズベキ儀ト被存候而シテ不就學兒童ヲ減少スベキ方略ハ公學費ノ收入ヲ増加スルヲ以テ專要ト

可致ノ處現時ノ教育制度ニ於テハ其收入ノ主タルモノハ授業料ト市町村費トニ有之明治二十三年度ノ調査ニ依レバ公學費歲入全額ハ九百八十七萬九千八百〇八圓餘ニシテ

治二十三年度ノ調査ニ依レバ公學費歲入全額ハ九百八十七萬九千八百〇八圓餘ニシテ